

---

# ランナーズ

桐野恭弥

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ランナーズ

### 【Zコード】

Z5519A

### 【作者名】

桐野恭弥

### 【あらすじ】

8月の熱気が残る、9月始めの日曜日。少年は、その日から全ての歯車を動かした。恋愛、友情、部活、両親、学校、…いろいろな問題を抱える17才の青春ラブストーリー…

## 第一章 空き缶

今思えば、あの時に僕らはもう夢に向かって走る『ランナーズ』だったんだ！

…あれは、まだ夏の熱気が残る9月の最初の日曜だった…  
まだ暑い9月最初の日曜の朝…

…俺、こと『桐野恭弥』は汗だくになりながら走っていた…

「暑あちい…暑すぎる。クソッ！」

勢いで近くにあつた空き缶を蹴り飛ばす。

カーン

綺麗な放物線を描いて空き缶は前を歩く人に向かい飛んで行く…

「危なッ…」叫んだ時には『時既に遅し』だった。

空き缶は カンッ と響いた音をたてて通行人に直撃した！

「だッ、大丈夫ですか！？」

慌て駆け寄る俺。

「いッ、痛いです…」

「あのッ！本当に『めんな…さ…いッ…？』

俺は、言葉を失った…

何故なら、空き缶を当ててしまった人は…『春野さくら』…夢高の2年で俺と同級。

そして…学校1の美少女（古いか？）で合唱部のエース的存在…つ

と、とにかく俺達男子の憧れの的だ。

それよりも、今は春野の体が心配だ…

「ゴメンツ！春野、大丈夫か？」

春野は、始めは驚いた様だつたが、すぐに俺と分かつたようだ。

「なんだあ、桐野君かあ～。もう！痛いよ～」

手を目の下に当てて典型的な泣き真似をする。

「…バレバレだぞ？ってか怪我は無いのか！？」

「大丈夫！体は丈夫なの。でも…すっごく痛かつたから、駅前のアイス奢りね？」

人の弱味に…まあ俺が悪いから仕方ない。

「はあ…1つだけだぞ？」

「はあ～い…ねえ？桐野君は毎朝この辺り走ってるの？」

「…そうだけど？何で急にそんな事聞くんだよ？」

「えつ！？…そつ、それは…何と無くだよ～」

何慌ててんだよ…

「じゅあイイや。…なツ…！…ヤベツ時間が…」

夏との約束の時間はあと5分しか無い！

「どうしたの？」

…と春野。

「ワリイ！夏との約束があるから！また連絡するわ。じゃつ！」

急いでその場を離れて夏との約束の場所に行く。

「バイバイ オリナリwすれぬでよ～う」

一瞬、転げそうになつたけど、春野の声に軽く手を挙げて返事をする。

ハツ…ハツ…

今日は、何と無く大変な一日になつそうだ。

## 第一章 衝撃発言

夏との待ち合わせ場所は、いつも決まって『旭ヶ丘公園』の大時計前だ。

「ヤバいな、完全に遅刻だよ…」

7時26分、大時計前到着…集合時間は7時10分だ。

そこには疲れた様に座り込んでいる夏がいた。

「…夏ツ！ワリイ。遅れた。」

『夏』とは『海藤夏』…俺の友のつかない友達だ。

「いつもの事だけど時間守れよ…」

軽くため息を吐く夏…

しかし俺は気にせず明るく話しかける。

「まあまあ。気にすんなよ ジャあ今からジョグ行こうぜい」

ジョグとはジョギングの事。

「はあ…。仕方ない、行くか…」

走り始めて氣が付く。

夏が普段と違う。

軽く切り込んで話をする。

「なあ、夏？何か今日のお前変じやないか？」

「別に。いつもと同じだろ？」

やつぱり違う。

「いや！絶対におかしいッて。だつて何か元気ねえし！遅れた理由だつて聞いてこねえし…」

「そうかあ？…」

そこからは一人とも黙りこんでしまった。

そして、8時丁度に大時計前に帰ってきた。

「…ハイツ！終わり。」

ジョグが終わつた。

でも、夏はまだ変だ。

「なあ。お前、ホンシツに大丈夫なのかよーっ走つてる時はずっと上の方だし……悩みでもあんのか？」

また、ため息をついて夏が喋りだす。

「はあ……実はさあ……」

「ああ。実は？」

「俺……実は……好きな人ができる！」

？？？

一瞬、思考が停止した。

……！

30秒後、ようやく理解できた。

そして口から出てきた言葉はこれだった。

「マジかよー？…………誰？」

かされた様な声がでた。

かなり無神経だと思うがその一言しか言えなかつた。

「実は、C組の……」

夏は、やっぱり変だ。

いつもの夏なら、絶つ対『そんな事聞くなよッ』ってツッコむのに……

夏はそのまま話だした。

「……C組の、春野さくら……なんだ。」

……！

この、夏からの急な衝撃発言に、俺は言葉を失つた。  
そしてやつぱり今日は大変な一日だと思つた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5519a/>

---

ランナーズ

2011年1月7日15時23分発行